

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スマートキッズソリス行徳		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 6日		2026年 1月 5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	2025年 12月 3日		2025年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 4日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもの状況について職員間で共通理解を図りながら支援を進めている。	・日々の支援前後に打ち合わせを行い、前回の支援時の子どもの体調や気分、配慮点を確認している。 ・支援記録をもとに小さな変化も共有し、対応方法をすり合わせながら支援を行っている。	・職員間で子どもの様子や支援内容を共有する際、単に「〇〇ができた／できなかった」と伝えるのではなく、どのような声かけや環境調整を行ったか、支援の意図や方針まで整理して伝えていく。 ・指導員同士の方針をそろえ、子どもが取り組みやすく、支援のねらいを引き出せる方法を共有し、支援の質を高めていくことにつなげていく。
2	・個別支援計画をもとに、利用者に獲得してもらいたい力を意識した活動を組み立てている。	・日々の様子や保護者からの聞き取りを踏まえて計画を作成し、目標に沿った活動を設定している。特に個別対応の時間においては、獲得してほしいスキルを意識的に取り入れ、活動の中で自然に経験できるよう工夫している。	・個別での活動以外でも集団活動の場面でも目標のつながりをより明確にし、活動のねらいを職員間で言語化・共有することで、一貫性のある支援へと発展させていくことが求められる。
3	・保護者との情報共有を大切にし、安心して通所できる関係づくりを行っている。	・支援後のフィードバックを通して子どもの様子や取り組み内容を丁寧に伝え、必要に応じて相談の機会を設けている。 ・保護者が意見を伝えやすい雰囲気づくりを意識し、日常的なコミュニケーションを重ねている。	・活動や支援の意図や目的を子どもや保護者に分かりやすく伝え、個別支援計画の目標とも関連づけて説明することで、保護者の信頼感向上を目指す。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・活動内容や事業所の取組についての発信を行う。	・情報発信が掲示や口頭説明に偏ることがあり、活動のねらいや具体的な支援内容が十分に伝わっていない可能性がある。	・ブログの更新など発信方法や頻度を整理し、活動の目的や子どもの変化が分かりやすく伝わる工夫を継続していく必要がある。

2	<p>・学校等の関係機関との直接的な情報共有の機会が少なく、保護者を介した情報伝達を中心となっている為、直接的なやりとりが出来ていない。</p>	<p>・現在は保護者を通じた情報共有が中心となっており、学校等と直接やり取りを行う機会が限られている。</p>	<p>・情報共有の方法を検討し、必要に応じて関係機関との連絡や情報交換の機会を設けることで、より一貫した支援体制を構築していくことが求められる。</p>
3	<p>・支援の内容や説明方法について、職員ごとに違いを感じさせてしまっている。</p>	<p>・職員の伝え方の違いにより、支援の目的や方法の表現に若干の差がある場合がある。</p>	<p>・ミーティング時に支援方針や説明内容を整理し、共通の基準を設けることで、誰が対応しても同じ水準で説明・支援ができる体制を整えていく必要がある。</p>

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	スマートキッズソリス行徳	公表日	2026年3月20日
		利用児童数	28
		回収数	27

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
		24	1	2	1		
環境・ 体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	24	1	2			・アンケート実施後に環境整備を行い、環境整備により活動スペースを拡大した。今後も利用人数や活動に応じて空間配置を見直し、過ごしやすい環境づくりを行っている。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	20	2	4	1	・以前より職員数が減ったことで、先生方の負担が増え、支援の質が下がったように感じる。 ・先生の人数が少なくなり、相談しづらくなったことや、職員の入れ替わりによりこどもの不安が強まっている。 ・配置数自体は問題ないとしても、先生によって専門性や説明の分かりやすさに差があり、発達段階に応じた見通しを丁寧に伝えてくれる支援が特にありがたい。	・役割分担や情報共有を強化し、負担の偏りを軽減している。また、活動のねらいや段階的な支援の考え方を親子間で共有し、保護者への説明内容の統一を図るとともに、家族支援相談等を案内し、相談しやすい体制づくりを進めていく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19	5	1	2		・生活空間についての意見を踏まえ、掲示物や配置を見直し、こどもが分かりやすく安心して過ごせる環境づくりを進めている。今後も障害特性に応じた環境調査や情報提示の工夫を行っている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	22	2	2	1	・昔の配布物が割れてきているがそのままだったり、掃除が行き届いていない。サーキュレーターは壊だらけなのに回したり、アレルギーがあるのでもっと気になる。人員不足なので仕方ないと思う。	・掲示物や備品の点検・清掃の優先項目を定め、使用前確認を徹底することで、安心して過ごせる環境づくりを行っている。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	23	2		1	・いつも子供が興味を持つであろう課題を用意して下さって感謝しています。 ・いつも工夫した課題を用意して下さり、ありがたいです。 ・どの先生も、子どもにも親にも親切に下さって感謝しているが、発達障害についてもっと詳しく知りたいと思う時もある。	・こどもの興味関心に合わせた課題設定への評価を踏まえつつ、発達特性に関する理解を深めるため、職員間での情報共有や、本社の心理士等の専門職への相談体制を活用し、より専門性のある支援につなげていく。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	24		1			・支援プログラムに沿った支援を継続するとともに、活動のねらいをフィードバック時に伝えることで、内容の分かりやすさを高めていく。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	25				2	・今後もこどもや保護者のニーズを丁寧に把握し、支援内容に反映した計画作成を継続していく。 ・「わからない」との回答があったことから、計画作成時や見直し時に、支援目標や支援内容の意図をより分かりやすく説明し、保護者が計画内容を理解しやすくなるよう工夫していく。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	24				2	・「本人支援・家族支援・移行支援」の視点を踏まえた支援内容を設定していることについて概ね評価を得ている。 ・一部に「分かりにくさを感じる意見があったことから、今後は計画作成時や説明の場において、各支援項目がどのような支援につながっているのかを簡潔に伝え、保護者が計画内容を理解しやすくなるよう工夫していく。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	24	1			1	・個別課題の時間を活用し、各児童の支援計画を反映した課題設定や関わりを行っている。 ・フィードバックについては、集団で行う場合もあるが、可能な範囲で個別に活動のねらいやこどもの様子を伝えるよう工夫している。また、職員間支援内容や伝達事項を共有し、誰が対応しても同じ内容を保護者に伝えられるようにすることで、支援計画に沿った支援であることが分かりやすくなるよう取り組んでいく。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	26					・子供がいつも楽しみに通所しています。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3	3	13	8		・特に必要としてはいません。 ・地域交流については、親視点では事業所内支援を中心としているが、今後は保護者の意向を踏まえ、必要に応じて地域資源の情報提供や交流機会の検討を行っている。
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	26					・利用開始時に運営規程や支援内容、利用者負担について説明を行っているが、今後も説明内容の統一を図り、分かりやすく伝えることで、保護者が安心して利用できるよう継続して取り組んでいく。	
13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	26					・放課後等デイサービス計画を示しながら支援内容を説明する対応を継続し、今後も分かりやすい言葉での説明や必要に応じた個別の補足説明を行っていく。	
14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	4	2	9		・家族支援に関する取組や外部研修の情報提供が十分に伝わっていないため、今後はフィードバック時や指示等を通じて定期的に案内し、保護者が必要に応じて活用できるよう周知を強化していく。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	スマートキッズソリス行徳				公表日	2026年3月20日
チェック項目	はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	2	1	・室内のレイアウトを見直し、活動内容に応じて動線やスペースを確保する工夫を行っている。 ・人数や年齢層を意識しながら、活動の内容や配置を工夫し、安全面に配慮している。	・人数が多い日や学年の高い児童が多い場合には、運動スペースが十分とは言えない場面もあるため、活動の工夫や利用人数の調整について引き続き検討していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	1	・配置された職員の中で児童の状態や活動内容に応じて役割分担しながら対応している。 ・事前の打合せや支援中の声掛けにより、状況に応じた柔軟な対応を行っている。	・児童の人数や特性に応じて、支援の進め方や役割分担がより円滑に行えるよう、事前の情報共有や動線・支援方法の工夫を引き続き検討していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	2	・活動スペースや机の配置を工夫し、できるだけ動線が分かりやすくなるよう配慮している。 ・必要に応じて、落ち着ける場所を確保するなど、安心して過ごせる環境づくりを心がけている。	・生活空間の構造化や視覚的な分かりやすさについて、表示方法や区切り方などを見直し、より理解しやすい環境づくりを進めていく必要がある。 ・特性に応じた環境配慮について、職員間で共通理解を深めながら、段階的な改善を行う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	1	2	・活動内容に応じて机や物品の配置を調整し、必要なスペースを確保する工夫をしている。 ・こどもが落ち着いて過ごせるよう、声かけや関わり方で環境面を補っている。	・清掃や整頓の基準について職員間で差が出ないよう、重点箇所やタイミングを整理していく必要がある。 ・活動内容や人数に応じた空間の使い分けについて、より無理のない運用方法を検討していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3		・落ち着きが必要な子どもに対して、個室や離れた場所での個別対応できるようにしている。 ・個室利用の判断や誘導方法について、職員間で共有し、柔軟に対応できるようにしている。	・個室利用のタイミングや基準をさらに明確にし、全職員が統一した対応できるように整理していく。 ・利用する子どもに合わせた個別スペースの使い方や環境設定をより工夫していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3		・業務前ミーティングで、当日の目標や前回の振り返りを職員全員で共有し、PDCAサイクルに職員が参加できる体制を整えている。 ・振り返りを基に、その日の支援内容や方法を調整し、改善点をすぐに反映できるようにしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3			・保護者の声をさらに幅広く反映できるよう、評価表やフィードバック方法を工夫する余地がある。 ・収集した意見を業務改善に反映する手順を、より明確にしている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		・職員の意見をもとに、支援方法や日々の業務の改善に反映している。 ・意見の共有により、チーム全体で共通理解を持ちながら対応できる体制になっている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	3		・定期的に社内の心理士による研修を受講しており、職員全員が参加できる機会を確保している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		・月ごとの支援プログラムを作成し、廊下に掲示することで、職員および保護者が内容を確認できるようにしている。	・掲示による周知が中心となっており、支援プログラムの目的やねらいが十分に伝わっていない場合がある。今後は、掲示内容を活用した説明の機会を設け、支援プログラムがより実践と結びつくよう工夫していく。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3		・保護者との面談を実施し、ニーズや希望を確認したうえで、過去の記録や日々の観察記録を参考にしながら放課後等デイサービス計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		・放課後等デイサービス計画の作成にあたり、児童発達支援管理責任者だけでなく、支援に関わる全職員が業務前ミーティング等で情報を共有し、こどもの最善の利益を考慮した検討を行っている。 ・個別のニーズや目標について、職員間で具体的な対応方法や優先度を確認している。	

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		・業務前ミーティングで全職員で再確認し、支援内容や目標について定期的な確認を行っている。 ・主に個別対応の時間に、計画内容をなるべく反映できるよう工夫している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3			・標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントについては、実施の頻度や活用方法にばらつきがあり、十分に活用できていない場面がある。今後は、フォーマル・インフォーマル双方のアセスメントをバランスよく活用できるよう、方法や視点の共有を進め、より客観的な把握につなげていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3		・こどもの発達状況や生活背景、保護者の意向等を考慮し、支援に必要な項目を設定した上で、具体的な支援内容を計画に反映している。	・計画に設定した支援内容がすべての職員に均等に理解されているか、確認の仕組みをさらに整備する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		・業務前ミーティングでチーム全員が参加し、児童の状況や目標に応じて活動プログラムを立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		・あらかじめ集団のスケジュールを立てる中でも、活動を進め方や関わり方を工夫し、児童の反応に応じた支援を行っている。 ・日々の支援の振り返りを次の活動に活かし、必要に応じて内容や方法を見直している。	・集団のスケジュールを事前に確定しているため、複数日を組む利用している児童については、同じ活動プログラムに取組む場面が生じることがある。 ・今後は、同一の活動であっても内容の一部を変えたり、ねらいや関わり方に変化を持たせるなど、児童の経験が広がるよう工夫していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3		・活動ごとにねらいや配慮点を事前に業務前ミーティングで確認して、支援に反映している。	・活動内容や時間配分の工夫をさらに洗練し、個別・集団の支援の質をより均一化できるようにする。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		・ミーティングで確認した内容をもとに、職員同士が連携しながらチームで支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3		・支援終了後に職員間で振り返りを行い、気付いた点や改善点を共有している。	・振り返りの方法が指導員の判断に委ねられ、口頭や簡単な記録中心になりがちのため、記録の標準化や体系的な整理方法を検討する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		・日々の支援内容を記録し、個別の支援状況や反応を把握している。 ・記録をもとに、支援の振り返りや改善点の検討に活用している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		・半年に一度必ず個別支援計画の見直しを実施。その際、日々の記録や観察結果を活用し、児童の状況に応じた具体的な支援の見直しができるようにしている。	・個々の児童に応じた支援内容の優先順位を明確にして、計画見直し時に反映しやすくする。
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	3		・個別活動と集団活動、生活支援を組み合わせ、児童の発達や興味に応じて柔軟に支援を実施している。	・「4つの基本活動」のうち地域交流が未実施であり、今後どのように導入できるか検討が必要。 ・活動のバランスや優先度を職員間で共有する具体的な方法(チェック表など)の工夫が課題。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3		・活動や遊びの中で、児童が「やりたいこと」を選べる場面を意図的に設けている。		
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		・児童発達支援管理責任者がサービス担当者会議や関係機関との会議に参加し、日頃の支援内容やこどもの状況を踏まえた情報共有を行っている。 ・会議で得られた情報や意見を、職員間で共有し、日々の支援に反映している。	・参加職員の視点をより広く支援に生かせるよう、会議後の情報共有の工夫を検討していきたい。	
27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	1	・必要に応じて、保健・医療機関や障害福祉、保育・教育機関と情報共有を行い、連携した支援につなげている。	・どのような連携を行っているのかを、職員全体で把握し、やすい形で共有していくことが今後の課題である。	
28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	2	1	・保護者とのフィードバック時に連絡を密に取り、学校での状況や下校時刻の確認を行っている。 ・年間計画や行事予定についても、保護者を通じて必要な情報を把握し、支援に反映している。	・学校との直接的な情報共有の機会が少なく、保護者経由での情報伝達に依存している。今後は、学校との定期的な連絡手段や情報交換の仕組みを検討し、より正確で迅速な情報共有ができる体制を整える。	

関係機関や保護者との連携	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	1			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3		・現時点では該当児童はいないが、移行時に必要な情報提供の準備や手順の検討を進めている。 ・過去の支援記録や個別計画を整理しており、移行先に提供できる体制づくりを意識している。	・実際の移行経験がまだないため、情報提供の具体的な手順や内容を確立できていない。今後は、具体的な手順や内容を検討していく。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		3			・地域の児童発達支援センターとの連携や、外部からのスーパーバイズ・助言を受ける機会は十分に確保できていない。今後は、必要に応じて外部機関と連携を行っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		3			・放課後児童クラブや児童館との直接的な交流がまだないため、今後は他施設の行事やイベントへの参加を年間計画に組み込むなどの具体策を検討を行っていく。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		3			・協議会への直接参加は未実施のため、今後は、業務調整のうえ参加できる機会を検討する。 ・参加できない場合も、協議会の議事録や資料を定期的に入手し、職員間で共有し支援改善に反映させる。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達や課題について共通理解を持っているか。	3			・支援終了時や面談時に、保護者と個別でフィードバックを行い、こどもの発達や課題について共有している。 ・保護者からの相談や希望に応じて、情報を補足的に伝える工夫をしている。	・家族支援相談等の案内を通じ、必要に応じて個別で情報共有できる機会を提供していく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	1		・ペアレント・トレーニングなどの家族支援プログラムを紹介し、希望する家族に情報提供を行っている。	・実際に参加してもらう機会はまだ整っていないため、今後は参加しやすい方法(オンラインや時間調整など)も検討する。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3			・利用開始時に、運営規程や支援プログラム、利用者負担等について書面を用いながら丁寧な説明を心がけている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3			・放課後等デイサービス計画の作成時に、保護者との面談や口頭のやり取りを通して、家族の意向や希望を確認している。 ・こどもの様子や気持ちを日々の文庫の中で丁寧に汲み取り、こどもの最善の利益を意識した計画作成に努めている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3			・支援内容を「放課後等デイサービス計画」を示しながら説明し、保護者が理解しやすいよう具体例も交えている。 ・不明点や質問があれば、その場で確認できるようにしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3			・希望する保護者には家族支援相談の機会を設け、個別で相談に応じている。	・希望しない保護者には個別対応の機会がないため相談対応にばらつきが生じているが、定期的なアンケートや送迎時の声掛け、オンライン面談などにより、全保護者が相談しやすい体制を整えることで改善を図る。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3			・年に1回以上、保護者会を開催し、保護者同士が交流できる機会を設けている。	・参加状況や交流の深まりにばらつきが見られるため、保護者が参加しやすく、有意義と感じられる内容について検討していく必要がある。 ・開催方法やテーマ設定を工夫し、交流の目的や内容がより分かりやすくなるよう改善していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3			・実際に苦情があった場合は迅速に対応し、必要に応じて関係職員で情報を共有して改善策を検討している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	1	2			・ブログや通信等による定期的な情報発信が十分に行っていないため、発信方法や更新体制について見直しを行う。 今後は、更新頻度や内容を整理し、無理のない形で継続的に情報発信が行える仕組みづくりを検討していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3			・個人情報の取扱いについて、職員間で共通認識を持ち、日常業務の中で十分に配慮している。 ・書類の保管場所や管理方法を定め、第三者の目に触れないよう徹底している。 ・口頭での情報共有においても、場所や相手に配慮し、必要最小限の情報共有に留めている。	・現在の取組を継続するとともに、改めて個人情報保護に関するルールや留意点を定期的に確認する機会を設ける。
44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3			・こどもの発達特性や理解力に応じて、言葉の選び方や伝え方を工夫し、視覚的支援や具体的な例を用いながら説明している。	・現状を継続しつつ、より多様な特性やニーズに対応できるよう、意思疎通や情報伝達に関する知識・技術の向上を図る。 ・職員間で有効な伝達方法や工夫事例を共有し、支援の質にばらつきが出ないよう引き続き取り組んでいく。	

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	2		<ul style="list-style-type: none"> 現在は、地域住民を招いた行事や交流の機会を設けるまでには至っていない。 今後は、感染症対策や個人情報・安全面に配慮した上で、無理のない形で地域との関わりを持てる方法（見学受入れ、地域行事への限定的参加等）について検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3		<ul style="list-style-type: none"> 事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応等について、それぞれマニュアルを整備し、職員が確認できる体制を整えている。 感染症対応や事故発生時を想定した研修・訓練を実施し、具体的な対応手順を職員間で共有している。 	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3		<ul style="list-style-type: none"> 業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害時の事業継続や職員の役割分担について整理している。 地震や火災等を想定した避難訓練を定期的の実施し、子どもを安全に誘導する手順や避難経路の確認を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> BCPの内容について、実際の行動に結びつける理解をより深めるため、定期的な読み合わせや簡易訓練の実施が必要である。 今後は、保護者への情報共有方法や引き渡し対応を含めた訓練も取り入れ、より実践的な備えにつなげていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3		<ul style="list-style-type: none"> 体調変化や服薬内容に変更があった際には、保護者からの連絡を受けて随時情報を更新する体制を整えている。 	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3		<ul style="list-style-type: none"> アレルギーに関する情報は申し送り等に反映し、関わる職員間で共有することで、誤食や事故の防止に努めている。 おやつや食事を提供する際には、個別の配慮が必要な子どもを事前に把握し、提供内容や声かけに注意して対応している。 	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3		<ul style="list-style-type: none"> 安全計画を作成し、事故防止や緊急時対応、感染症対策等について職員が共通理解を持てるよう、研修や訓練を定期的の実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全計画や研修内容を、日々の支援場面により確実に結び付けられるよう、定期的な振り返りの機会を設ける必要がある。 職員間で安全管理に関する理解や実践に差が生じないよう、具体的な事例を用いた共有方法を工夫していく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3		<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハットが発生した際には、記録を残し、職員間で情報共有を行っている。 共有した内容については、ミーティング等で状況や背景を確認し、支援方法や環境面の見直しにつなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例の蓄積や振り返りをより活かせるよう、定期的な確認の機会を設ける。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3		<ul style="list-style-type: none"> 虐待防止委員会の研修に全職員が参加し、共通理解を図っている。 当事業所の児童を想定した事例検討を行い、具体的な支援場面に即した学びにつなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修内容を日々の支援に継続して活かすため、簡単な振り返りや共有の機会を設けていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3		<ul style="list-style-type: none"> 身体拘束が必要となる場合の基準を職員間で共有し、保護者に説明・同意を得た上で支援計画に記載している。 	<ul style="list-style-type: none"> 身体拘束に至らない支援方法について、具体例の共有や振り返りを行い、より予防的な支援の充実を図っていく。 	